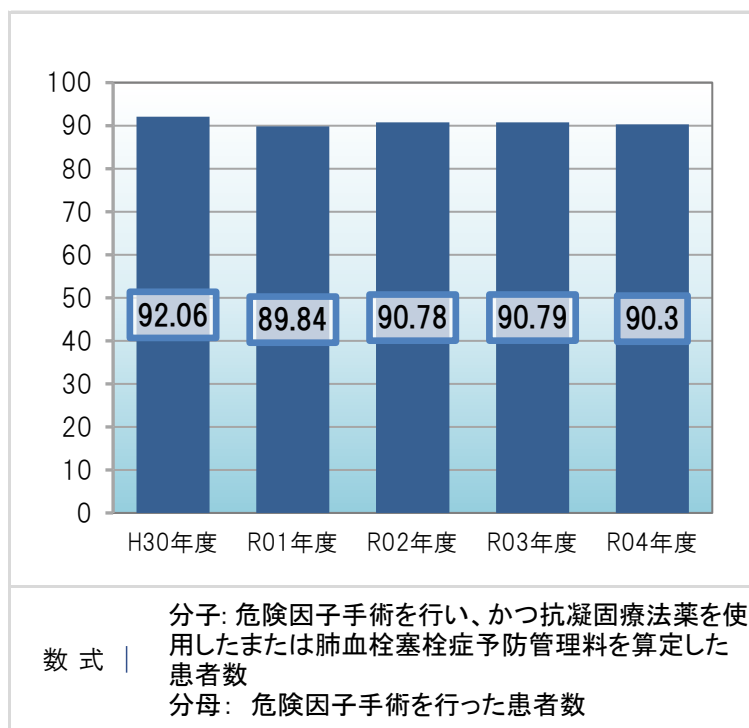


23 手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

● 項目の解説

肺血栓塞栓症は、エコノミークラス症候群ともいわれ、血のかたまり(血栓)が肺動脈に詰まり、呼吸困難や胸痛を引き起こし、死に至ることもある疾患です。長期臥床や下肢または骨盤部の手術後等に発症することが多く、発生リスクに応じて、早期離床や弾性ストッキングの着用などの適切な予防が重要になります。当該指標は、術後肺血栓塞栓症予防の対策の実施状況を評価するものです。

● 当院の実績



単 位 | 割合 (%)

期 間 | 年間

備考

肺血栓塞栓症は長期臥床や下肢または骨盤部の手術後に発症することが多い疾患です。当院では、弾性ストッキングの使用などの予防対策を適切に実施しています。

令和4年度国立大学病院平均値 90.05%

● 定 義

当該項目は独立行政法人国立病院機構が平成27年9月に発表した「国立病院機構臨床評価指標Ver. 3.1計測マニュアル」に基づき作製しています。具体的にはDPCデータを元に算出した、特定の手術を実施した患者に対する「肺血栓塞栓症予防管理料」の算定割合を算出するものです。

参考URL:独立行政法人国立病院機構「国立病院機構臨床評価指標Ver.3.1計測マニュアル」
https://nho.hosp.go.jp/cnt1-1_0000840927.html